

健闘たたえ拍手

第43回社会人野球日本選手権大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催)が京セラドーム大阪(大阪市)で2日、開幕し、和歌山箕島球友会が開幕戦で明治安田生命(東京)と対戦した。序盤にリードを

先制も初勝利ならず



箕島球友会

和歌山箕島球友会
01001000001010—53
04100000010X—53
明治安田生命

球場には、チームが拠点を置く有田市や有田町の住民、選手の大半が勤務するスーパ―「松源」の社員らが応援に駆け付けた。

箕島球友会は一回、二塁打を放った先頭の夏見宏季選手が犠打と適時打で還り、先制。幸先良いスタートに有田市の職員や吹奏楽団員らでつくる応援団も一気に盛り上がった。同市OBで応援団長を務める境正吉さん(61)は「先制は絶対勝ちにつながる」と手をたたいて喜んだ。

先発・寺岡大輝投手

1回戦 許し、追いつけたものの3-5と惜敗した。出場5回目の日本選手権で悲願の初勝利はならなかったが、企業チームと互角に戦った選手たちにスタンドからは大きな拍手が送られた。【木原真希】

は相手打線につかまっ
て5点を奪われ、三回
途中で降板。和田拓也

投手がマウンドを引き
続いた。両投手が勤め
る松源の兼田守社長は
「押され気味だが、選
手にはクラブチームの
頂点に立った誇りを持
って頑張ってもらい」
とエールを送る。
直後の四回には西口
稔基選手の適時二塁打
で2点目。有田市の望
月良男市長は「絶対逆
転すると信じましたよ
う」とマイクを握って
応援団を鼓舞した。
八回2死二塁から穴
田真規選手が中前適時
打を放って2点差に迫
ると、スタンドで見守
る母和恵さん(51)は隣
の仲間と抱き合って跳
びはねた。
九回にも夏見選手の



応援席から和歌山箕島球友会の選手に声援を送る観客
―大阪市の京セラドーム大阪で

三塁打で2死三塁の好
機を迎え、最後まで目
を離せない展開に応援
もヒートアップ。後続
が中飛で倒れ、観客席
は一瞬ため息に包まれ
たが、健闘をたたえる
拍手が湧いた。
チームを運営するN
POの桑原太郎理事長
(37)は「惜しかった。
厳しい練習に耐え、よ
く頑張った」と最後ま
で粘りをみせた選手た
ちをねぎらった。

林尚希主将(27)



勢をチームメイトに伝えよ
うと努めた。前主将の浦川
拓人さん(28)も「責任感が
生まれ、主将としてひと回
り大きくなった」と評価す
る。
しかし、年齢を重ねるご
とに古傷の左膝の痛みが長

チームへ貢献最後の試合

4番打者として臨んだ一
回の初打席は2死三塁の好
機で回ってきた。「ここで
の1本が勝利につながる」
と言い聞かせ、打ち返した
打球は中前への先制打に。
「チームに貢献できてよか
った」と振り返った。
奈良県出身。小1で野球
を始め、大阪・上宮太子高、
三重中京大を経て大学の
監督の紹介で箕島球友会
に入った。入団4年目の昨
年から主将を任された。「言
葉で伝えることが得意で
はない」と、練習や試合で
ひたむきに組み込むこと
で、野球に対する真摯な姿
後にした。

試合後、「(前回出場の)
2年前に比べると好機も多
く、勝った試合だった。ま
た来年も野球をします、と
言ってしまうそう」と悔し
さもにじませつつ、球場を